

プレミアム

# GI REPORT

ボートレース バトルチャンピオン

第6回

## BBCトーナメント

1/23~26 ボートレース常滑



### 決勝戦結果

着	艇番	予想	選手名	タイム	進入	ST
1	①	◎	茅原 悠紀	1.49.3	1	16
2	③	○	白井 英治	1.50.5	3	27
3	⑥		寺田 祥	1.52.2	6	20
4	②	×	前田 将太	1.53.0	2	19
5	④		馬場 貴也		4	29
6	⑤	△	上條 暢嵩		5	20
2連単			①-③	290円	1番人気	逃げ
3連単			①-③-⑥	2280円	11番人気	

常滑を舞台にして行われた「GI第6回BBCトーナメント」は茅原悠紀の圧勝劇で幕を閉じた。常滑のモーターは昨年11月に切

**連日のイン戦で勝利を収めた茅原悠紀が今年の初陣シリーズを制し、6代目チャンピオンに輝く**

り替わりまだ日が浅い。それだけに相場はまだ決まっていなかったが戦前から注目されていた61号機を中澤和志が、35号機を寺田祥が引き当てる。特に中澤の伸びは強烈だった。前操者の佐藤悠がチルト2度で仕上げたものをそのまま引き継ぐと、前検では伸び型調整のスペシャリストである菅章哉を抑えて一番時計をマーク。初戦のシリーズ予選を大外から一気にまくると、これで注目度がグンと上がった。後半の1回戦ではこの伸びを警戒した前年覇者の関浩哉がフライング。関のFは23年8月以来と久々だっただけに、中澤の伸びがいかに脅威だったかが分かる。そうした伸び型の選手が注目さ

れる中で茅原は序盤調整に苦戦していた。選出順位が上位だったこともあり、コース利があったことも大きかったが、連日コメントは決して良くなかった。見事アマダマシンで決勝戦の1号艇を手に入れるも「仕上がりは微妙」とトーンは上がらず。しかし、最終日に流れが変わった。「毎日明日のペラのレシビを考えているんですけど、菊地（孝平）さんのアドバイスが自分の考えたレシビと似ていた。自信を持って行けた」と方向性を見出すと、特訓からこれまでとは明らかに違う動きを披露。決勝戦は外に付け入る隙を与えないイン逃走劇で見事、今年の初陣となったシリーズを優勝で飾った。



ベルトを巻いた茅原悠紀

## 準決勝11R

着順	艇番	選手名	進入	ST
1	⑤	白井 英治	5	15
2	①	前田 将太	1	19
3	③	上條 暢嵩	3	21
4	②	河合 佑樹	2	18
5	⑥	島村 隆幸	6	18
6	④	毒島 誠	4	13

2連単 ⑤-① 6690円 18番人気 差し

3連単 ⑤-①-③ 22820円 60番人気

## 準決勝12R

着順	艇番	選手名	進入	ST
1	①	茅原 悠紀	1	10
2	④	寺田 祥	4	09
3	③	馬場 貴也	3	10
4	②	定松 勇樹	2	09
5	⑤	菅 章哉	6	09
6	⑥	磯部 誠	5	05

2連単 ①-④ 850円 3番人気 逃げ

3連単 ①-④-③ 2440円 7番人気

## 決勝戦メンバー

予想	艇番	選手名	F・L	モーター	今回成績		
					初日	2日目	3日目
◎	◎	① 茅原 悠紀		◎ ◎ ○	① -12	③① 六14-08	① -10
○	×	② 前田 将太	F	○ ○ ○	① -15	⑤① 五08-16	② -19
△	○	③ 白井 英治	F	○ ◎ ◎	②③ 三17-10	⑤③ 五16	① 五15
×		④ 馬場 貴也		○ ○ ○	② -11	③② 六12-11	③ 三10
	△	⑤ 上條 暢嵩		◎ ◎ ◎	①① 五11-14	② 二10	③ 三21
		⑥ 寺田 祥		◎ ◎ ○	⑥② 三19-13	② 四21	② 四09



スーパーアマダマシーンで1枠を手にした茅原悠紀



引きたくなかった5枠を引き手で顔を覆う上條暢嵩



強烈な伸びでシリーズを盛り上げた中澤和志

毎年のことではあるが、やはりスーパーアマダマシーンは面白い。公平を期すため、どうしても複雑になるのは仕方ないが、いざ始まれば選手の悲喜こももなシーンが見られる。

今年も選出順位が上位だった茅原が1枠を手にしたことで、決勝戦を戦うメンバーには順当な枠順となったが、昨年のグランプリで毎回のよう5枠を引いていた上條暢嵩は事前の記者会見で「引きたくない枠がある」と話したものの、アマダマシーンで5枠が決まりそうになると「ヤバイ」と顔がひきつり、いざ5枠が決まると「うわありえへんて！これはヤバイ、怖すぎる」と顔を手で覆ったのが印象的だった。

また、常滑には連日、多くのファンが詰めかけた。特に決勝戦前の1M付近は大賑わいで勝った茅原は「すごいお客さんがいてSGみたいだった」と来場したファンの数と大きな声援に驚いていた。

レース的にも先述した中澤や菅のような伸び型の選手をマークするのか、それとも真つ向から受け止めるのか、その進路の駆け引きがあったり、10万舟券が2回出たりと配当的な妙味があったり、4日間節としては見ごたえは十分だった。

売り上げは69億22万3200円と目標だった65億円を超え屋間の開催としては大盛況。今年もポーターレース人気の底堅さを示す結果となった。

**シリーズを盛り上げたスーパーアマダマシーン  
連日の白熱したレースにファンも盛り上がる**